

令和8年
2026年

5月28日
木曜日

第11958号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



オリメル社のジャーベイスCEO、リベストCOO(次期CEO)が来日……P2~3

▶ オリメル社のジャーベイスCEO、リベストCOO(次期CEO)が来日① ……P2~3

▶ 食品・飲料11社が連携「北海道食産業人財活躍連合(FCH)」を新設 ……P3

▶ [牛・豚・鶏肉需給予測] 6月生産量は3畜で増加の見込み ……P4

▶ 「2026数字でみる食肉産業」発刊、食肉に関するデータを網羅 ……P5

▶ スターゼン、自己株式取得に関わる事項の決定を発表 ……P5

▶ 「第1回食品容器包装等情報交換会」を開催—農水省 ……P6

▶ 全国食肉公正取引協議会が第50回通常総会を開催二川隆一氏を新会長に選出 ……P7

▶ スターゼン、株主への記念優待実施を発表 P7

▶ 食肉輸出入協会が総会、川端会長「厳しい環境だからこそ、協会の役割重要」 ……P8

▶ 全肉業連が総会、渡邊会長再任、専務理事に清田氏 ……P8

▶ 「2026数字でみる食肉産業」申込書 ……P9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]27日 ……P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]27日 ……P11

注目のヘッドライン

オリメル社のジャーベイス CEO、リベスト COO (次期 CEO) が来日①

—日本は最も重要な戦略的市場で、最も高品質の商品が求められる市場

…詳細はP2~3

食品・飲料 11 社が連携「北海道食産業人財活躍連合 (FCH)」を新設

…詳細はP3

銘柄牛肉ガイドブック'25

多岐にわたる情報を網羅

380
ブランド
以上

定価 B5判/258頁
2,500円

生産 と畜 流通

食肉通信社



オリメル社のジャーベイス CEO、リベスト COO (次期 CEO) が来日^上 日本は最も重要な戦略的市場で、最も高品質の商品が求められる市場

カナダ最大の食品メーカーであるオリメル(ケベック州)では今年7月、ヤニック・ジャーベイスCEO&プレジデント(社長兼最高経営責任者、写真左)が退任し、後任としてダニエル・リベスト現COO(最高執行責任者、同右)が新社長に就任する。

新体制発足を前に、同社が重要市場として位置付ける日本のパートナー企業・関係者との意見交換を行うため、両者が来日を果たした。多忙なスケジュールの間を縫い、上坂哲司日本支社長(同中央)と共にメディアからの合同取材に応じた。今号でジャーベイスCEO、次号でリベストCOOのインタビューを掲載する。

【ジャーベイスCEOにきく】

—2021年のCEO就任以来、コロナ下におけるロックダウンや物流の混乱、インフレなど、さまざまな困難な課題がありました。また、23年のバレージャンクション工場閉鎖は、日本でも大きなニュースとなりました。そのような難しい環境の中、どのように課題を乗り越えてきましたか。また、今後の事業展開の展望はいかがでしょう。

コロナ下は確かに厳しい期間だったが、日本に渡航することができなくても、日本支社を介してWeb会議を実施するなどして、日本の顧客と可能な限り多くのコミュニケーションを取ることを意識し、情報公開を含めた透明性を保つことに努めた。その結果、直接会うことができなくとも日本の顧客との良好な関係性を継続させることができた。

また、バレージャンクション工場閉鎖の決定は非常に厳しい判断だった。日本の顧客にも大きな影響を与えることは十分に予想できたため、より丁寧に説明することを心掛けた。日本の皆さまの理解と協力のおかげで私たちの置かれている状況を理解いただき、短期的な利益ではなく、長期的な視点を持ってビジネスを継続していただいている。その結果、生産工場を他の工場へ振り替えるなどして、日本向けのチルドポーク輸出量を大きく減らすことなく、同工場を閉鎖することができた。

次のステップとしては、チルドポークの生産キャパシティー拡大と、主にカナダ国内向けの加工品を含む付加価値商品の強化を考えている。オリメルとして、当



面はと畜頭数自体を増加させることはないが、今年度中に約1千万ドルをかけて真空包装ラインを増強し、チルドポークの生産キャパシティーを拡大させていく予定だ。

—CEO就任以来、何度も日本を訪問されるなど日本市場との関係強化に注力してこられました。また昨年には「エンジェルクラフト」という新ブランドを立ち上げ、「麦富士」「オリメル」との三つのブランドに分けた、新たなマーケティング戦略を展開されています。オリメルにとって日本市場の重要性、また日本のパートナー企業との関係構築において、特に大切にされてきたことはありますか。

日本はオリメルにとって最も重要な戦略的市場であり、最も高品質の商品が求められている市場でもある。今後も日本市場のために投資を続けていく方針だ。当社が日本向けに輸出する商品は、カナダ国内向けの商品以上に高い品質基準で提供している。これは、オリメルが長年大切にしてきた姿勢であり、基本方針でもある。今後も日本市場は当社にとって次の成長フェーズの中心を担う重要な市場と位置付けている。それぞれ30年、20年以上の歴史を誇る「オリメル」および「麦富士」に加え、昨年にはアンジェガーデン工場の「エンジェルクラフト」ブランドを立ち上げた。同じようにサクセスストーリーを歩んでくれることを願っている。

日本のパートナー企業とは、商談や会食を通して非常に良好な関係性を築いてくることができた。互いが信頼できるパートナーと認識しながら取り組んでいくことが大切だ。2年前に家族を連れ、日本を訪問したが、私の家族も日本という国が大好きになった。今後

も家族と共に日本を訪れたいと思っている。

—現在、オリメル社はカナダ国内のみならず、日本の輸入ポーク市場においても大きな存在感を持つ企業となっていますが、このタイミングでの経営トップ交代を決断した背景、狙いをお聞かせください。

理由は二つある。一つ目は個人的なことであり、私自身「La Fernandiere」というファミリービジネスに従事して25年が経ち、家族と離れることが多く、今後は子供たちとの時間をより大切にしたいと思うようになった。

二つ目は経営面を考えてだ。約1年前から、私はCEOを退任することを決めており、その中で現在の事業をどのように最適化し、さらに高付加価値の製品を展開していくかを考えてきた。そのビジネスモデルを実現できるのは、ダニエルしかいないと確信している。彼は、私のキャリアの中でも最も優秀な人物の1人であり、優れたビジネス戦略だけでなく、強いビジネスマインドも兼ね備えている。今後カナダ市場だけでなく、日本を含むアジア市場、さらに米国市場において、オリ

メルブランドをさらに成長させていく上で、彼以上の適任者はいないと考えている。企業の経営戦略は3～5年のサイクルで変わっていくことが理想的だ。これまで、生産の最適化やチルドポークの強化を進めてきたが、今後は加工肉などの付加価値商品の拡大を進めていくつもりだ。その戦略にはダニエルが最も適任だと考え、彼にバトンタッチすることを決めた。

—今後日本のパートナー企業との関係をさらに強化していく上で、リベストCOOにどのような期待をしますか。

ダニエルのリーダーシップにより日本向けチルドポークの販売規模は大きく拡大した。10年前と比較し、現在はその4倍以上に成長している。また、彼はVAP(付加価値商品)のマーケティングに精通しており、重要市場である日本・韓国・カナダの顧客との関係性も強固なものを持つ。ダニエルであればさらに強いチーム、強いブランドを築き上げることができると確信している。(連載続く)

食品・飲料 11 社が連携 「北海道食産業人財活躍連合 (FCH)」を新設

日本ハム、日本ホワイトファーム、日本フードパッカー、ホクレン農業協同組合連合会、カルビー、カルビーポテト(株)、サッポロビール、(株)新星苑、日本甜菜製糖(株)、雪印メグミルク、よつ葉乳業の11社(順不同)は26日、連携して北海道食産業人財活躍連合(通称=FOOD CAREER HOKKAIDO〈フードキャリア北海道〉)を立ち上げたことを発表した。同連合では、人口減少や人財不足といった課題に直面する北海道において、「食」を支える仕事の魅力や社会的意義を次世代に伝えることを目的に、共同での採用・人財育成の取り組みを進めていくとしている。

[立ち上げの経緯]豊かな自然と広大な土地を有する北海道は、食料供給を支える地域として、私たちの食卓に欠かせない食品を生産・製造する大きな役割を果たしている。

一方で、日本の食料自給率は、38%と低水準にとどまっており、その維持・向上は国全体の課題だ。また、

北海道においても若年層の道外流出により、食を支える産業全体で人財不足が深刻化している。こうした状況を受け、北海道に拠点を置き、原料調達から生産・製造まで「食」の現場に深く関わってきた企業・団体が、個社の枠を越えて集い、共通の課題に向き合いながら、具体的な行動につなげていく必要があるとの認識で一致した。同連合ではその第一歩として、全国の高中生や大学生、専門学校生に対し、採用活動を開始する。

[採用活動の内容(予定)]①道内で働く魅力を伝えるための合同説明会の実施(高校生/大学生/一般向け)②道外の高中生向けの参加企業・団体によるキャリア授業の展開③食品・農業分野を支えるために不可欠な、技術系人財の採用強化

※各施策への参加は、参加企業・団体ごとの判断・状況に応じて実施する予定であり、全ての参加企業・団体が一律に全施策へ参加するものではない。

【牛・豚・鶏肉需給予測】6月生産量は3畜で増加の見込み

農畜産業振興機構は27日、4～6月の牛・豚・鶏肉需給予測を発表した。それによると、牛肉の生産量は5月が2万5600t(前年同月比6.4%減)、6月が2万8千t(0.6%増)と予測。品種別出荷頭数をみると、5月は和牛が3万8200頭、交雑種が1万8900頭、乳用種が2万1200頭、6月は和牛が4万2900頭、交雑種が1万9600頭、乳用種が2万3300頭とそれぞれ予測している。

また、輸入量は5月が4万3300t(10.5%減)、6月が4万1200t(2.4%減)とそれぞれ減少を予測。内訳をみると、5月は冷蔵品が1万3300t(18.0%減)、冷凍品が3万t(6.7%減)、6月は冷蔵品が1万2800t(9.2%減)、冷凍品が2万8400t(1.0%増)を見込んでいる。冷蔵品は、現地価格の高止まりや為替相場の影響などがある中、5月は、大型連休後の不需要期であるところ、主要輸入先である豪州産で前年のような通関のずれが見込まれないことに加え、主要輸入先である米国産の輸入量の減少が見込まれることなどから、前年同月を大幅に下回ると予測。6月も引き続き豪州産や米国産の輸入量の減少が見込まれることから、前年同月をかなりの程度下回ると予測。そのため、3カ月平均では、前年同期を大きく下回ると予測している。冷凍品は、現地価格の高止まりや為替相場の影響などがある中、5月は、米国産を除く主要輸入先の輸入量の減少が見込まれること等から、前年同月を大きく下回ると予測。6月は、主要輸入先である豪州産の輸入量の増加が見込まれることなどから、前年同月をわずかに上回ると予測する。中国での豪州産に対するセーフガードの発動次第では、豪州産の輸入量がさらに増加する可能性もある。3カ月平均では、前年同期並みを予測している。

豚肉の生産量は、5月は6万6400t(9.2%減)、6月が7万3600t(7.3%増)の予測。輸入量は5月が9万3500t(3.4%増)、6月が9万1200t(8.9%増)としている。冷蔵品は、相場上昇による牛肉、鶏肉からの需要のシフトの影響などから、5月、6月共に前年

同月を大きく上回ると予測。そのため、3カ月平均でも、前年同期を大きく上回ると予測している。

冷凍品は、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置の影響によりスペイン産の減少が見込まれる一方、代替としてブラジル、米国、欧州各国などからの輸入量の増加が見込まれることなどから、5月はわずかに、6月は大きく前年同月を上回ると予測。3カ月平均でも前年同期をやや上回ると予測している。

鶏肉の生産量は、5月は14万1900t(2.7%減)、6月は15万t(6.2%増)と予測。輸入量は、5月が5万4500t(12.3%増)、6月が5万5700t(8.1%増)と予測している。前年のブラジル産の輸入量が価格上昇などにより低水準であったことや、最近の現地での生産が堅調であること等から、5月、6月共に前年同月を大きく上回り、3カ月平均でも前年同期を大きく上回ると予測している。

牛・豚・鶏の需給予測 (単位:頭、トン)

	5月		6月		
	出荷頭数	前年比	出荷頭数	前年比	
牛 計	78,700	92.5	86,200	100.0	
和牛	38,200	88.6	42,900	96.9	
交雑牛	18,900	93.8	19,600	94.5	
乳牛	21,200	99.1	23,300	112.1	
豚	1,177,000	90.7	1,312,000	106.6	
部分肉の需給予測	量	前年比	量	前年比	
牛肉	生産量	25,600	93.6	28,000	100.6
	輸入量	43,300	89.5	41,200	97.6
	出回り量	66,700	99.5	68,200	98.9
	月末在庫量	139,400	94.6	140,400	95.2
豚肉	生産量	66,400	90.8	73,600	107.3
	輸入量	93,500	103.4	91,200	108.9
	出回り量	146,500	99.7	149,700	102.7
	月末在庫量	230,400	96.7	245,500	100.3
鶏肉	生産量	141,900	97.3	150,000	106.2
	輸入量	54,500	112.3	55,700	108.1
	出回り量	192,200	100.3	189,600	100.1
	月末在庫量	153,900	99.2	170,100	107.2
輸入量の内訳(部分肉ベース)					
牛肉	冷蔵	13,300	82.0	12,800	90.8
	冷凍	30,000	93.3	28,400	101.0
	合計	43,300	89.5	41,200	97.6
豚肉	冷蔵	36,800	106.7	36,300	113.4
	冷凍	56,700	101.3	54,900	106.2
	合計	93,500	103.4	91,200	108.9

「2026 数字でみる食肉産業」発刊、食肉に関するデータを網羅

食肉通信社では、食肉業界の皆さまから多大な評価を頂戴している「数字でみる食肉産業」の2026年版をこのほど発刊いたしました。

「2026数字でみる食肉産業」では、食肉産業に係るさまざまな関連資料、統計資料をまとめております。わが国のみならず世界各地の近年の現在の情勢、過去からの推移などを網羅的に把握できる書籍となっております。

さまざまに変化する時代や環境に対応するには、正確なデータに基づく将来の見通しが欠かせない要件です。本書は情報を正確に把握し、対応を見極める一助となります。内容は、複数の項目で構成されております。

食肉センター関連では、全国各地のと畜頭数の推移や枝肉生産量の推移、と畜場の分布・流通量、格付実績。生産では、家畜飼養頭羽数・飼養戸数の推移、SPF種豚と認定工場の分布、家畜の生産費。合わせて配合・混合飼料の生産量、配合飼料価格の動向、近年の飼料穀物の輸入状況、配合飼料価格安定制度の概要について記載。また、食肉輸入の推移として、食肉の輸入数量および金額の推移、種類別・輸入先国別輸入量、米国・豪州の牛枝肉カットチャートを掲載。

需給については、牛・豚・鶏肉需給と在庫、出回り量。消費動向では、世帯別の肉類支出金額・購入数

量、食肉の消費構成割合を網羅。国産・輸入牛・豚・鶏肉価格の推移も掲載しています。

食肉加工品では、年次別全国生産量、POS売れ筋ランキング、主要食肉加工メーカー業績、種類別輸入先国別輸入量を紹介。その他外食市場規模の推移、業態別売上動向や、主要国の牛・豚・鶏・その他の生産量・消費量・輸出入量、フィードロットの動向、パッカーランキングについても記載しています。

B5判で文字もみやすく、充実したデータ本となっております。企業経営上の基礎資料、部門戦略の検討資料、新入社員の社内研修用テキストなど、幅広くご利用いただいています。お早めのご購入をお勧めいたします。

書籍概要▷図書名 「2026数字でみる食肉産業」▷体裁 B5判472ページ▷定価 4191円(税込み、送料別)▷ご注文方法 冊数・ご所属・お名前・ご住所・電話番号を明記の上、FAX06(6538)5510、もしくは弊社ホームページwww.shokuniku.co.jp(株)食肉通信社まで。



スターゼン、自己株式取得に関わる事項の決定を発表

スターゼンは26日付の取締役会決議で、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に関わる事項について決定したことを発表した。

同社は、2025年11月に公表した「中期経営計画2030」において、株主還元の拡充を経営の最重要課題の一つと位置付けている。昨今の、同社の株主還元方針に基づき、株価水準、財務バランスおよび資本構成の状況、さらには成長投資に必要な資金需要などを総合的に勘案した結果、株主還元の一層の充実を

図ることが適切であると判断し、自己株式の取得を実施することとした。取得に関わる事項の内容は以下の通り。

①取得対象株式の種類 同社普通株式②取得し得る株式の総数 150万株(上限、発行済株式総数<自己株式を除く>に対する割合2・6%)③株式の取得価額の総額 15億円(上限)④取得する期間 26年7月1日から12月31日まで⑤取得方法 (株)東京証券取引所における市場買い付け。

「第1回食品容器包装等情報交換会」を開催—農水省

農水省は27日、「第1回食品容器包装等情報交換会」を省内で開催。同会は現下の中東情勢を踏まえ、食品の製造、流通・小売、外食・中食などに関わる関係業界および行政において食品容器包装などに関する需給情報を共有し、市場の安定に資することを目的としたもので、約250社の関係団体がWebで参加した。

冒頭、鈴木農水大臣(上写真)は、「昨今の中東情勢の影響により、食品容器包装など、石油製品についても供給の偏りや流通の目詰まりが生じていると把握し、事業者の皆さまにおいては、日々さまざまな工夫を検討するなどといったご苦勞を重ねていただいていると認識している。また、農水省としては相談窓口を設け、流通の目詰まりなどの事案を伺った際には石油製品のサプライチェーンをさかのぼり、経産省と連携し、一つひとつ丁寧な対応に努めている最中である。事業者の皆さまが安心してこれからも事業継続できるとともに、国民の皆さまへの食料の安定供給という責任を、一緒に果たしていただけるよう、この場を食品容器包装の受給状況や調達状況などについての情報収集の場として活用いただきたい」と説明。

続いて、経産省の松山泰浩政策立案総括審議官(下写真)が「農水省と共に、中東情勢を巡る石油製品の供給に関して対応してきた。食品容器包装は国民の生活に直結する非常に重要な分野であり、この対応により徐々に改善の方向に向かっていると認識している。原油の確保、そしてナフサ由来の包装製品についても、民間事業者の皆さまの努力により代替的な確保がなされる状況となってきた。目詰まりの問題が盛んに取り沙汰されているが、情報の不足により経済活動が滞ることのないよう対応していきたい」と述べた。

農水省は、食品産業における燃油とナフサ由来製品の使用状況との説明および、目詰まり解消事例として米袋や農業用マルチシート、バックインボックスの紹介、また業界向けの食品容器包装の安定供給に向けた協力要請通知の紹介、相談窓口の設置などが説明された。

経産省は、中東情勢を踏まえ、原油の代替調達の動向について述べた。6月の代替調達は、従前の7割

以上の見通しであり、中東や米国に加え、中南米、アジア太平洋、中央アジアからも調達を進めている。6月にはアフリカにも原油調達先が拡大される予定。原油調達先の多角化が進展することに加え、7月の代替調達についても、6月の水準をさらに上回る水準を確保すべく、最大限取り組むこと、および当面の備蓄方針について、第2弾の国家備蓄放出に際し、5月の代替調達率を保守的に4割と想定して放出量を決定した。一方、現時点では、当初の想定を上回る約6割の代替調達が実現できる見込みであるとし、6月についても7割以上の代替調達にメドがいてくる。輸送上のリスクを考慮し、代替調達率を保守的に6割(日量約140万バレル)と想定しても、これまでの備蓄放出決定分を活用し、6月に必要な原油を確保できる見通し。このため、今月の第3弾の国家備蓄放出の決定は行わないこととする他、民間備蓄の義務水準(現在は55日)は、次の1カ月間も維持することが説明された。

開催後のブリーフィングにおいて、農水省新事業・食品産業部食品製造課の野添剛司課長は「本会に参加された食品団体からは、資材調達の懸念や流通の目詰まりに対する意見が上がった。窓口を設置し流通の目詰まりの原因になっているような受発注を平準化への通達で解消に至った事例もあるので早めに相談いただきたい」と述べた。

経産省商務・サービスグループ流通政策課の平林孝之長課長は「川上の状況がどうなっているのかについて、正確な情報が企業の皆さまに伝わっているのかといった点を、こういった情報交換会の場でお伝えできる貴重な場となった」と述べた。

なお、同情報交換会の次回開催については未定だが、団体からの開催の要望および容器包装需給状況に関する情報の公開などがあれば適宜行っていくとしている。



全国食肉公正取引協議会が第50回通常総会を開催 二川隆一氏を新会長に選出

全国食肉公正取引協議会(村上幸春会長)は25日、東京都港区のグランドニッコー東京台場で第50回通常総会を開催。議事では令和7年度事業報告ならびに決算報告承認、8年度事業計画ならびに収支予算決定、任期満了に伴う理事および監事選任の件について審議し、いずれも原案通り可決し、二川隆一氏を新会長に選出した。

冒頭、主催者を代表し村上会長は「食肉業界においては原材料や物価の高騰、慢性的な人手不足など大変厳しい状況が続いている。一方、消費者の食肉への関心が高まりをみせている中、一部の業者による表示違反がいまだに発生している。こうした中、消費者の食肉に対する一層の理解や信頼の獲得に努めることが重要になっており、私どもは業界を挙げて適正表示や法令順守に努めなければならない。引き続き、関係機関のご指導の下、食肉業界発展のために努めてまいりたい」とあいさつ。

来賓では消費者庁表示対策課の岡田博己課長が祝辞。来賓紹介の後、新たに県食肉公正取引協議会会長に就任した北海道の有澤宏会長、山形県の工藤一美会長が紹介された。続いて村上会長を議事に、令和7年度事業報告ならびに決算報告承認、8年度事業計画ならびに収支予算決定、任期満了に伴う理事および監事選任の件について審議し、いずれも原案通り可決した。8年度は①食肉適正表示の周知徹底②組織の強化③食肉流通機能適正化推進事業な



どに取り組む。

任期満了に伴う理事および監事の選任では、新たに新役員体制が発表され、新会長には二川隆一氏を選任。二川新会長は「微力ではあるが、よろしくお願ひしたい。最近、表示違反が続いているが、会員の皆さま方には改めて適正表示の徹底をお願いするとともに、関係機関のご指導の下、一致団結し前進してまいりたい」と就任の抱負を述べた。

主な新体制は次の通り。

会長 二川隆一▷副会長 鈴木章夫、牧野剛、島原康浩、中村哲也、強谷雅彦、廣川治▷専務理事 小林博行▷常務理事 森秀悦、上野好一、征矢野茂、市瀬哲男、加藤功、池田清昭、大本明範、熊谷法夫、露崎正二郎、三留晃、渡邊道彦、伊藤剛嗣、鎌川浩之、佐藤実▷監事 藤原幸作、三谷勝義、本多由和、松尾邦光

スターゼン、株主への記念優待実施を発表

スターゼンは、株主への記念優待を以下の通り実施することを発表した。

実施の背景および記念優待の内容 ①同社は、1971年の日本マクドナルド銀座1号店のオープンと同時にビーフパティの納品を開始し、現在に至るまで継続している。今年7月をもって、日本マクドナルド(株)との取引開始から55周年を迎えることから、この節目を記念し、株主にマックカード1千円分を贈呈する②対象となる株主 26年9月末日時点の株主名簿に記載

または記録された株主のうち、同社株式を100株以上保有している株主を対象とする③贈呈時期について 26年10月下旬以降、普通郵便にて順次配送④今後の株主優待について 同優待は、日本マクドナルド(株)との取引55周年を記念したもので、今回限りの実施となるが、今後も株主に対する還元を経営の最重要課題の一つと位置付け、一層の拡充に努めていく。

食肉輸出入協会が総会、川端会長「厳しい環境だからこそ、協会の役割重要」

日本食肉輸出入協会(川端尚徳会長=写真)は26日、2026年度通常総会を東京都港区の芝パークホテルで開催。25年度事業報告、26年度事業計画など、上程全議案を承認した。25年度は、農水省動物衛生当局との情報交換に加え、昨年11月のスペインにおけるASF発生を受け、12月に前会長および専務が農水省を訪問。「地域主義導入等に係る要望書」を手交し、生産的な意見交換を行った。また、協会創立30周年を踏まえ、11月28日に記念誌を発刊。会員、関係者らへ配布した。さらに今年1月には動畜産物輸出入検疫協会との共催で、農畜産業振興機構酪農乳業部の中野貴史部長を招き、世界の食肉需給動向に関する勉強会を開催。両団体会員、農水省関係者ら、総勢約100人が参加し、盛況となった。26年度も、食肉の輸入動向調査および会員への情報提供や関係官庁・団体との連絡折衝、食肉に関わる安全性および信頼性に関する事業の推進、円滑な食肉輸出入の推進のための情報収集事業などを行う。

上月敏也前会長の退任に伴い、今年4月から就任した川端会長は「当協会の運営に会長として携われることに喜びを感じるとともに、職責の重さを非常に

感じている」とあいさつ。さらに「近年のわが国の食肉調達をめぐる環境は、大変厳しい状況が続いている。牛肉、豚肉、鶏肉、いずれにおいても生産国の現地価格の高止まりが続き、それに追い打ちをかけるように円安が輸入価格を押し上げている。そうした中、昨年はスペインにおいて野生猪の豚熱が発生し、現在も輸入が停止されている。その他、なかなか終息がみえない中東情勢など、さまざまな不安要素が影響を及ぼしている」と指摘。その上で「そのような厳しい環境であるからこそ、当協会の役割が非常に重要になってきている。会員への迅速な関連情報の伝達や関係者との情報交換などを通じて、円滑な食肉の輸出入をしっかりと確保し、国民の食生活の安定に寄与することが求められている」とした。来賓からは農水省食肉鶏卵課の伊藤大介課長があいさつした。



全肉業連が総会、渡邊会長再任、専務理事に清田氏

全国食肉業務用卸協同組合連合会は26日、東京都港区のアジミックビルで第45回通常総会を開催した。令和7年度事業報告および同収支決算、8年度事業計画および収支予算案、非常時に備えたデジタル対応に伴う定款の一部変更など、すべての上程全議案が承認された。任期満了に伴う役員改選では、渡邊道彦会長(写真)、渡邊恭司副会長、大金弘武常務理事、北川介通常務理事らが再任された。また、常務理事だった清田浩徳氏が専務理事に就いた。

総会の冒頭、渡邊会長は「会員企業の相互互助により経営の安定を図り、ガバナンスの構築とコンプライアンスの徹底を引き続き推進するための事業を実施する」とあいさつ。来賓から農水省食肉鶏卵課の伊藤大介課長、独立行政法人農畜産業振興機構の天羽隆理事長が祝辞を述べた。

本年度の事業計画では、食肉流通経営体質強化促進事業(農畜産業振興機構補助事業)、国産食肉等新需要創出緊急対策事業(同)、中小食肉卸売事業者資金融資円滑化緊急事業(同)、和牛肉需要拡大緊急支援対策事業(同)、食肉流通HACCPシステム事業共同実施事業(公益財団法人全国競馬・畜産振興会補助事業)、食肉販売合理化施設整備リース事業、教育情報事業、自主事業、組織内の体制強化などを承認。最後に渡邊新会長は、「会員の食肉卸売機能強化と経営の体質強化を推進していく」と述べた。



2026数字でみる食肉産業

最新の食肉データを収録

最新刊

食肉の需給が
わかる!!



新たに、銘柄豚
マップ、「冷凍畜
肉素材」POS
データを追加!

定価

4,191円

(本体 3,810円 + 税別)

◆図書名=「2026数字でみる食肉産業」

◆体裁=B5判472ページ ◆内容=食肉需給と見通し、食肉生産の動向、家畜と生産、飼料の動向、食肉輸出入の推移、WTO-EPA等の合意内容、畜産業振興事業、家畜疾病と食肉流通、トレーサビリティ関連、在庫・出回り量、食肉消費と支出金額、食肉価格の推移、食肉加工品の動向、食肉関連製品の動向、食肉販売の動向、外食の動向、世界の食肉統計、日本の主要食肉生産者・食肉取扱施設

お申し込みは食肉通信社 (FAX=06-6538-5510) まで

年 月 日

2026 数字でみる食肉産業 購入申込書

会社名(氏名)

購入部数

冊

〒

所在地(住所)

ご担当者名

TEL

株式会社

食肉通信社

大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06 (6538) 5505 FAX 06 (6538) 5510

TEL 03 (6206) 0929 FAX 03 (6206) 0928

TEL 092 (271) 7816 FAX 092 (291) 2995

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 5月27日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,298	2,808	2,486	-	-
		安値	2,366	2,376	1,962	-	-
		平均	2,638	2,521	2,338	-	-
		頭数	92	18	3	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,374	-	-	-	-
		頭数	1	-	-	-	-
	去 A	高値	3,082	2,568	2,484	-	-
		安値	2,313	2,336	2,271	-	-
		平均	2,615	2,478	2,407	-	-
		頭数	120	33	7	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B - 頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C - 頭	平均	-	-	-	-	
	去 B - 頭	平均	-	-	-	-	
	去 C - 頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,840	1,767	1,724	-
		頭数	-	5	19	8	-
	雌 C	平均	-	-	1,679	-	-
		頭数	-	-	1	-	-
	去 B	平均	-	1,812	1,808	1,734	-
		頭数	-	6	8	5	-
去 C	平均	-	-	1,647	1,621	-	
頭数	-	-	1	1	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	345 426	912 730	- 138.5	(競り)	(相対)	
				-	6	65

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,859	1,949	1,913	1,791	-
	B	-	1,811	1,824	1,689	-
和 去	A	2,549	2,419	-	-	-
	B	-	2,164	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,241	1,228
	C	-	-	-	1,224	1,223
乳 去	B	-	-	-	1,331	-
	C	-	-	-	-	1,231
交 雌	B	1,909	1,892	1,781	1,661	-
	C	-	-	1,683	-	-
交 去	B	1,989	1,839	1,813	1,692	-
	C	-	1,751	1,713	1,675	1,350

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	756	861	745	663	623
	安値	649	619	583	464	108
	平均	689	670	630	603	491
	頭数	(11)	(178)	(280)	(152)	(109)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	508
	安値	-	-	-	-	475
	平均	-	-	-	-	504
頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(6)	

[大阪食肉卸売市場] 5月27日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,514	2,444	2,208	-	-
(頭数)	(7)	(4)	(2)	(-)	(-)
B	-	-	2,155	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)
和 去 A	2,509	2,319	-	-	-
(頭数)	(9)	(2)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,858	-	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	-	1,920	-	-	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	630	596	538	486

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	5月27日	5月26日	(5月累計)
豚	58,200	63,500	1,138,000
成牛計	3,750	4,190	72,950
和牛雌	870	1,200	18,410
和牛去勢	1,130	930	19,760
乳牛雌	480	810	9,630
乳牛去勢	550	400	7,910
交雑雌	270	480	8,530
交雑去	450	370	8,540

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 5月27日

東京	1769円	(前日 1698円)
大阪	-円	(前日 1821円)

[豚・全農建値] 5月27日

上	中	取引頭数	市況
680円	647円	1,109頭	反落

と畜 売買	牛 61頭 牛 38頭	豚 109頭 豚 130頭	牛概況 豚概況	軟調 反落
----------	----------------	------------------	------------	----------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 5月27日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	691 (702)	- (-)	5,965	-	下落
仙台 [中]	- (632)	- (558)	475	5	-
宇都宮 [地]	685 (-)	617 (-)	1,276	74	続伸
茨城 [地]	689 (689)	656 (649)	1,110	505	もちあい
群馬 [地]	686 (726)	585 (631)	1,740	195	続落
さいたま [中]	686 (703)	682 (697)	251	258	反落
東京 [中]	670 (689)	630 (657)	912	730	急反落
横浜 [中]	686 (668)	629 (638)	664	660	反発
山梨 [地]	- (720)	- (720)	104	94	小安い
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	691 (676)	668 (656)	878	154	反発
京都 [中]	- (696)	- (676)	-	-	休市
大阪 [中]	630 (706)	596 (652)	109	108	反落
神戸 [中]	- (693)	- (735)	135	-	-
岡山 [地]	678 (678)	643 (643)	360	234	強含み
広島 [中]	677 (665)	651 (634)	170	55	上伸
福岡 [中]	680 (680)	643 (647)	356	151	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 5月20日～5月26日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,769,309 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,285	1,366	1,416	1,363	66,062
うで	819	864	901	869	123,784
ロース	1,188	1,279	1,361	1,275	163,068
ばら	1,361	1,399	1,445	1,400	141,244
もも	842	862	915	869	198,598
ヒレ	1,146	1,220	1,381	1,243	10,351
セット	1,043	1,098	1,118	1,093	1,066,202

◇近畿圏 総重量 743,987 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,339	1,494	1,529	1,471	61,498
うで	784	861	875	837	127,943
ロース	1,210	1,311	1,381	1,305	90,093
ばら	1,350	1,447	1,494	1,429	120,389
もも	837	883	923	877	169,151
ヒレ	1,253	1,381	1,502	1,385	9,796
セット	985	1,076	1,220	1,092	165,117

[食鳥正肉日経相場] 5月26日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	781	843	995	149
ムネ	436	488	669	161

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	778	862	1,050	3
ムネ	440	497	610	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 5月26日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	1,033	697	550	600	650
安値	770	462	290	360	350
平均	854	498	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間(1週間分)に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ(単価・重量)を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値(加重平均値)。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

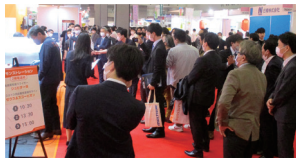
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡 晃 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します